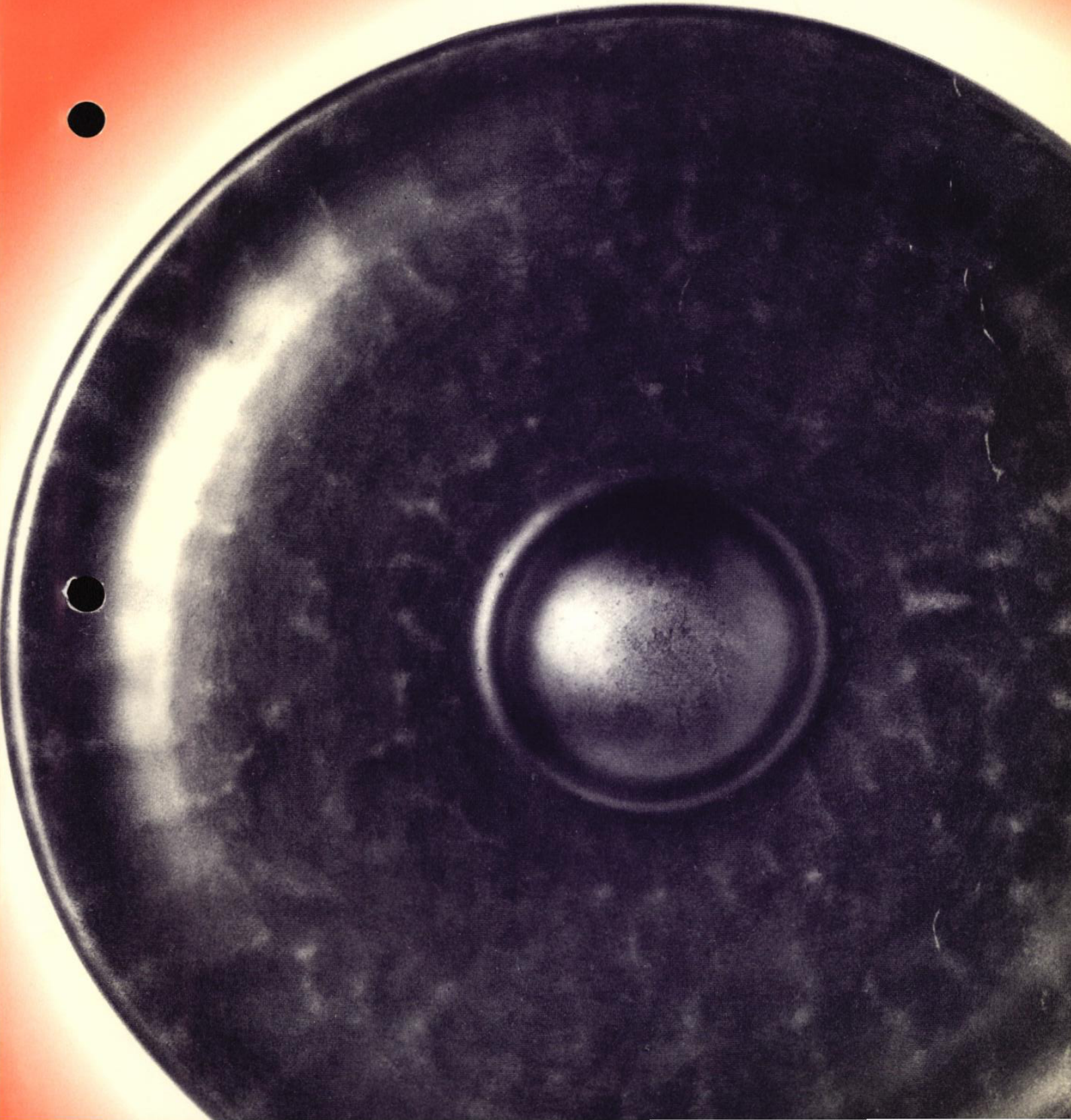


ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH

1995年6月1日 第536号

金澤北ロータリークラブ



ロータリーの原点を尋ねて次代を考える

飯 野 健 志



ロータリー・クラブ活動の一つの見方として、すべてのクラブが統括された上で、世界に対して、また国内の諸問題について共通の理念の下にプロジェクトを組織して活動を行うことと、もう一つは、会員個人が例会をはじめ、相互の日々の交わりから、人間としての素晴らしい品性を相手から与えられ、成長してゆく二面があると思われる。いずれの活動も、それが反射し合って、より良い相乗効果が生れるはずであり、昨年一年間の、われわれのクラブの歩んできた道を、ふり返るとき、しみじみ感ずることが多い。わがクラブの創生後間もなく入会させて頂いた小生にとって、入会当時の感激と喜びは、今思っても強烈に、また仕事上のストレスを忘れさせる例会や炉辺会合は、入会させて頂いて良かったとしみじみ思われたものである。ロータリーは、標題のように、常に原点を求めて模索し続けることが当然のことであり、そこには再び創生期の喜びや感激が存在し得ると思われる。もちろん、クラブは成長し、構成メンバー数も増大し、名前を覚えるにも苦勞する状態であったとしても、クラブ全体を流れる雰囲気には決して変化があってはいけないと思う。つねに、草創期の喜び、親しみ合い、いつくしみ合いが、クラブ全体のそれぞれに流れてゆかねばならない。私自身は今日在るは金沢北ロータリークラブの諸君のすべての皆様の暖かい修練と御支援の故と心から信じている。一人一人の会員の相互の交際、いろいろな場での修練を通じて団結した一流のクラブとして他に超然として存在を認められるはずである。ややもすればその故に至らざる点を指弾されていることも残念の極みである。20周年に期した言葉を再び呼び起して、金沢北クラブの再飛躍を期して止まない。原点はそれぞれの友の親睦であり、ルール遵守である。次代にもその次の代も原点は不滅、不変である。より良いクラブへの脱皮を皆で企てよう。



二塚長生会員画

地区協議会に出席して

会長イレクト 石 丸 幹 夫

国際ロータリー第2610地区1995—1996年度のための地区協議会が5月14日(日)能美RCのホストで辰口町総合福祉会館にて行われました。

そもそも地区協議会District Assemblyとは次期クラブ会長、幹事、RI理事会指定の地区内クラブ指導者の会合で、地区協議会は、指導を行い、ロータリー情報のプログラムを提供し、さらに、地元における地区の計画目標を分かち合う機会を作るための会合です。プログラムからは一切の娯楽、レクリエーションが除外されています。本当に勉強だけの会合です。

1995—1996年国際ロータリー会長はハーバード・グラハム・ブラウン氏（フロリダ州、米国）によるロータリーテーマは

Act with Integrity 真心の行動

Serve with Love 慈愛の奉仕

Work for Peace 平和に挺身

(いささか、いや大変暗記しにくいテーマとの評判ですが、現在の友達になろうとくつつけると、完全なロータリーをあらわしているものと思います。)

2610地区のインカミングガバナー湯尻清一郎氏の地区テーマは

“ロータリーを誇ろう”

(出席をきちんと、例会は楽しく、四つのテストの実践、新しいアイデアと行動、会員純増3%、国際友情交歓、ロータリー財団への協力)

当金沢北クラブとしましても、ガバナーの要請もあり、おこがましくも私、石丸も一応

“もっとロータリーを知ろう、そして、もっとロータリーを活用しよう!”

と言うテーマを作りました。よろしくお願いいたします。

湯尻ガバナーの所信挨拶の中で、「ロータリーの基本はクラブであり会員である自分自身を誇りあるロータリアンにすること、そうすれば、その組織は素晴らしいものに違いないと万人が考えるであろう。」と述べておられます。

10時 点鐘で11時まで総会

11時10分 から部会（会長、幹事、クラブ、職業、社会、国際、新人会員）

15時10分 からまとめとガバナー所感など

16時 点鐘

来年度は 上市RCのホストで行われます。

出席者 石丸幹夫、越田和好、奥田久雄、沢田光夫、
吉田富士男、米沢真二、山岸節夫、小林 隆、
卯野正博、藤川忠博、大澤久廣、江守 巧、
炭谷亮一、高橋善六、松平敦実、田中廣嵩、
中田秀雄の各会員



国際ロータリー1995～'96年度テーマ



真 心 の 行 動
慈 愛 の 奉 仕
平 和 に 挺 身

